

Where there is no Vision, the people perish

北九州信徒聖書学校

2014年7月号

第123号

月刊

# על-פליי ג'ים

流れのほとり

連絡先 〒807-8691 北九州市八幡南郵便局私書箱 26 号 本部 TEL&FAX 093(692)8592

所在地 〒807-0004 北九州市小倉北区鍛冶町 2-3-13 北九州 YMCA 内

HP <http://bible-school.name/>

E-Mail [hope\\_to\\_tomorrow.y@san.bbq.jp](mailto:hope_to_tomorrow.y@san.bbq.jp)

憂いに満ちた素朴な問いに

理事長 山口 晶久

入学式の度ごとに思い出します。貧しい生活環境のために、不幸にも学校と呼ばれる所で学ぶ機会を失った一人の婦人がいました。ある時に導かれて救いに預かり、彼女は真摯に聖書を学びました。さらに学び、神様のお役に立ちたいとまで願うようになりました。学ぶ機会を失った青春の日々を埋めるかのように願いは強められます。そして神学校、聖書学校に手紙を書いて入学を問いました。しかし、「せめて高校卒業ぐらいの学力がないと・・・」との応えでありました。望みは遂げられず落胆の余り、彼女は泣きました。「私のような者は学べないのですか?」。涙目の憂いに満ちた素朴な問いかけに、私は何かしら割り切れないものが心に重く残りました。

ふと思ったのです。受け入れる学校がなければ、彼女のためにも聖書の学び舎を始めたらい。単純で無鉄砲と思われる始まりでした。3年ほどの準備期間を終えて、1985年に本校は開校されました。「・・・あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起こさせ、

かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである・・・つぶやかず疑わないで下さい・・・」。問題が起き困難が立ちふさがり心折れそうになった時にも、このピリピ書2章12～16節の言葉に幾度も励まされ、今日まで歩みが進められてまいりました。多くの方々のお祈りとご支援により継続されて開校29年目を迎えています。

ある老伝道者が「人の一生は旅路です。新しい出発をするにあたって何が大切であるか。それは信仰による祝福を受ける旅路であるかどうかと問うことです。とても大切です」と、語りました。そして、祝福とは何か。「主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主が御顔を向けてあなたを照らし、あなたに恵みを与えられるように。主が御顔をあなたに向けて、あなたに平安を賜るように・・・」。民数記6章24～26節を引用して、「第1は守りである。第2は恵み。そして、第3は平安である」。この「3つが祝福として与えられることです。しかし、もっと大切なことは、神が私たちと共にいて下さるという経験です」。そのために「折にふれ志を立てるのです。なぜなら信仰とは志への感謝である」からですと。



本日、皆様はご入学なさいました。学びへの志を立てられました。先ほど老伝道者のお話をいたしました、ご参考になり学びを全うなさいますことを心より願います。

さて、私たちは春・夏・秋・冬と四季が豊かで鮮やかな日本国に生きています。中国の古代思想では、この四季に色を付けて年代を表しました。青色と春で「青春」。15～30代前半で新緑の時期で未熟さがあるが、一人立ちする時代。赤色と夏で「朱（赤）夏」。30代後半～50代後半で人生に迷わず天命を知る。白色と秋で「白秋」。50代後半～60代前半で人生の盛りを超え人の言葉を素直に聞ける、寛容な時代。黒色と冬で「玄（黒）冬」。60代後半で思うがまま振る舞うが道を外さない円熟の時期で、来世に備える年代である。このように中国の思想家は、生命の営みを四季になぞらえ、今立ち返る時間を懸命に生きようとしたのです。

私たちは、その時代年代を力強く生きたいと願います。しかし、人生は順風満帆ではありません。つまり、痛み、罪にうごめきます。ある時など自分の存在さえも認めてもらえないこともあります。特に人間関係で苦しみます。こんな川柳が紹介されていました。「調子どう？あなたが言うまで、ぜっこう調」。笑うに笑えない。

武井 博という人がいます。早稲田大学を卒業し、1959年NHKに入局し子ども番組の「ひょっこりひょうたん島」「ものしり博士」などの企画や演出などに携わります。49歳の時、制作ディレクターとして仕事に

邁進しやりがいを感じていました。そんなある日のこと、家庭内で問題が起きます。また退職後の生き方に何の指針もない自分に気づき、自分を見つめ直す必要に迫られ、誰に勧められることなく、自分から聖書を読もうと思ったそうです。すごいなあーと思いました。

聖書を購入し、最初のページ創世記から順に読み進みます。そして、ヨブ記36章15節の「神は苦しむ者をその苦しみによって救い、彼らの耳を逆境によって開かれる（口語訳）」の言葉に出会います。「苦しみ」や「逆境」、それ自体は人の行く手を阻むものであるのに、それが逆に救いにつながる。何か魂にガーンと来るような感動と衝撃を感じたというのです。さらに何か新しい生きる力が与えられるかもしれないと期待して読み進みます。新約聖書に入り山上の説教あたりを読むと鳥肌が立ったというのです。4ヶ月半で一通り読み終えます。

その後、教会に行き始めます。そこで「罪人」という言葉に出会い戸惑います。牧師に問います。「神から離れていることが最大の罪ですよ」と、明確な答えが返ってきた。自分は離れっぱなしで生きてきたので納得した。その後に聖書学院で学び牧師になったというのです。聖書を通し明確に救いに預かった一人の人の話です。

苦悩が続くと信仰者といえども空しさが占領して来ます。絶望の時にこそ「私の望み、それはあなたです」と信頼して、一步を踏み出し進みたいものです。なぜなら、私たちの望みは罪と死に、完全に勝利されたイエス・キリストを知っているからです。いよいよ金曜日から学びが始まります。「静まって、私こそ神であることを知れ」（詩篇46篇16節）とあります。お互い静かに聖書の言葉に耳を澄ませながら学ぼうではありませんか。

（2014年5月9日入学式祝辞要約）

## あなた方に特別に与えられた機会

香住ヶ丘キリスト教会牧師

校長 野村 幸生

本校への学びを志ざされ、その意欲を表して下さいましたことに感謝いたします。学びたいという志（思い）と、それがかなう境遇（環境）の両方が必要であることはいふまでもありません。

さて、私の牧会指針を少し紹介します。どの人の人生にも、その人でなくてはならない神様の取り計らいというものがあります。これに気づきますと、神様の特別な深い憐みを感じて感謝と讃美とを捧げ、さらに信仰生活に励もうとの思いに駆り立てられます。

この日本で、私たちは他の人と同じような境遇に育ちながら、この私に神様が特別に目をかけて下さった。なぜ私にイエス様が来られたのか。神様の偉大な教え、そして奥義を示して下さいたのかと考えます。特別な神様のお取り扱いでなくて何でしょう。また、この度のように本校で学ぶ機会が与えられたことも、神様の導きと受け止めて、学びに励んで下さればと思います。

そこで、ご自分が救われていることの意味をもっともっと深めて下さればと思います。救いこそが何ものにも代え難い価値のある宝であるということ。救われてクリスチャンになった。罪許され死んでから天国へ行ける。今ある生活の中で、私たちの罪のために神様がかけがえのない独り子をお与え下さった。どれも素晴らしいことです。これらを日々味わい深め、救われた者同士が互いに確かめ合うのです。

そして、深く知れば知るほど、私たちがどのような境遇に置かれたとしても、それほど問題でなくなります。この世の賢い人

や知恵ある人を隠して、愚かで、無きに等しく、軽んじられてきた、こんな惨めなこの私に、イエス・キリストこそ神の子であり、救い主であることを不思議な方法と導きで示して下さいた。ああ、何と幸いなことでしょう！このような学びがなされ確信に至らせるものであることを願わされています。

（2014年5月9日入学式式辞要約）

## 2014年度 北九州信徒聖書学校入学式

日時 2014年5月9日（金）午後7時

場所 北九州YMCA4F

司会 廣川和行教頭 前奏 開式の辞 聖書・祈祷 ピリピ書2章12～16節 原田昌樹牧師 讃美歌332 主はいのちを一同 新入生氏名点呼 上島信弥牧師 特別演奏 香住ヶ丘キリスト教会チャイムクワイア 式辞 野村幸生校長 新入生代表宣誓 力丸千鶴子 讃美歌502 いともかしこし 一同 祝辞 理事長山口晶久 頌栄540 みめぐみあふる 祝祷 塩屋弘牧師。

式後、本校同窓会主催で新入生の歓迎会が開かれました。

### 入学者氏名

□本科第28期生

力丸 千鶴子（北九州リバイバルチャーチ）

□専攻科第4期生

石黒 晴恵（北九州福音センター）

### 主の小道は（詩編25・10）

廣川 和子

今日も見事な枝垂れ梅が、生垣を越えて芳香を漂わせ、春色満開の花々が眼を楽し

ませてくれる。大地の息吹や生命の躍動感溢れる春が、私は大好きである。しかし、3年前、介護に疲れ病を得て鬱々していた私は、春景色にも心躍らず、信仰にも乾きを覚えていた。祈りのうちに、信仰の原点に立ち返るように示され、また主に仕えていくことを再度思い巡らし、北九州信徒聖書学校に入学した。

超教派の学び舎は、カトリック、プロテスタントの教派を超えた兄弟姉妹との学びであり、何年ぶりの机を並べての授業は、新鮮だった。さまざまな事情を抱えつつも毎週熱心に学ばれる方々、高齢な中にも真摯に主の仕え人として良き器となるべく学ばれる方、謙遜で熱意ある学ぶ姿勢に教えられ励まされた。講義は、理解するのに疎く鈍い私にも分かりやすいものであり、更に興味を深めていった。一对一の講義という贅沢な恵みも与えられ、詩篇25編を思い感謝した。途中、父や義母が召されたりしたが、学びを中断せずに3年を終えられることは主の憐み以外にない。

毎週金曜日の夕べに、力強い賛美のもとに礼拝が行われ、講義を受ける幸いは何物にも代え難い与えられた恵みである。この機会を十分活かし応えてきたのかと自問しつつ、今後の歩みに用いていただきたいと願う者である。

(日本キリスト兄弟団新下関教会員)

## 2013年度 北九州信徒聖書学校卒業式

日時 2014年3月28日(金) 午後7時  
場所 北九州YMCA

### 卒業生及び修了生氏名

□本科 通学第27期生

井上 千鈴(日本キリスト教団行橋教会)

田畑 実(日本キリスト教団北九州復興教会)

高瀬 紀子(カトリック黒崎教会)

杉本 和彦(北九州希望の光キリスト教会)

□研究科 第21期生

廣川 和子(日本キリスト兄弟団新下関教会)

## 宣教ホームピスガ定礎式

### 第一期建設工事

去る3月22日(土) 午前11時から、建設用地 福岡県遠賀郡水巻町頃末南3丁目48、49で関係者30名が集い、宣教ホームピスガの定礎式が行われた。この建設の祈りは2000年5月、4名から始まった。



時が過ぎ2011年12月、JR鹿兒島本線水巻駅から徒歩2分利便性も良く、環境良好な土地598,60㎡(181,07坪)が購入され、建設の祈りから14年目、ようやく第1期工事の着手に至った。

ただ主を見上げ必要を寄り頼んでの働き。神様のいつくしみと恵みを信じ、建設が一步一步進められる。主に在る忍耐と継続してのお祈りとご支援に深い感謝を申し上げます。

## 宣教ホーム建設委員会一同

代表者 山口晶久

### 編集後記

本校の使命と働きに寄せられます日頃のご加禱ご支援に深い感謝を申し上げます。